



降誕祭

Nativity of the Lord Jesus Christ

単音

晩堂大課・早課

名古屋ハリストス正教会

2015

降誕祭 晩堂大課 2015

司祭 我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。
誦経 「アミン」。

我等の神よ、光荣は爾に帰す、光荣は爾に帰す。

誦経 【天の王】

天の王、慰むる者よ、真実の神[°]、在らざる所なき者、満たざる所なき者よ、萬善の寶藏なる者、生命を賜ふ主よ、来りて我等の中に居り、我等を諸の穢より潔くせよ、至善者よ、我等の靈を救ひ給へ。

誦経 【聖三祝文】[至聖三者][天主經]

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。(三次)

光荣は父と子と聖神[°]に帰す、今も何時も世世に、「アミン」。

至聖三者よ、我等を憐め、主よ、我等の罪を潔くせよ、主宰よ、我等の愆を赦せ、聖なる者よ、臨みて我等の病を癒し給へ、悉く爾の名に因る。

主憐めよ。(三次)

光荣は父と子と聖神[°]に帰す、今も何時も世世に、「アミン」。

天に在す我等の父よ、願はくは爾の名は聖とせられ、爾の国は来り、爾の旨は天に行はるるが如く地にも行はれん、我が日用の糧を今日我等に興へ給へ、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給へ、我等を誘に導かず、猶我等を凶惡より救ひ給へ。

司祭 蓋国と権能と光荣は爾父と子と聖神[°]に帰す、今も何時も世世に。
誦経 「アミン」。

主憐めよ。(三次)

光荣は父と子と聖神[°]に帰す、今も何時も世世に、「アミン」。

来れ、我等の王・神に叩拝せん。(叩拝一次)

来れ、ハリストス我等の王・神に叩拝俯伏せん。(叩拝一次)

来れ、ハリストス我等の王と神の前に叩拝俯伏せん。(叩拝一次)

P171(時課経 P205)

誦経 第4聖詠

吾が義の神よ、我がよぶ時、我に聴き給へ。我が狭に在る時、爾我に廣を與へたり。我を憐みて、我が祷を聴き給へ。人の子よ、我が榮の辱しめらるること何の時に至るか、爾等虚を好み詭を求むること何の時に至るか。爾等主が其聖者を析ちて己に属せしめしを知れ、我よべば、主は之を聴く。怒りて罪を犯す母れ、榻に在るとき爾等の心に謀りて、己を鎮めよ。義の祭を献げて、主を恃め。多くの者は言ふ、誰か我等に善を示さん。主よ、爾の顔の光を我等に顕し給へ。爾の我が心に楽しみを満つるは、彼等が餅と酒と油とに豊なる時より勝れり。我安然として優し寝ぬ、蓋主よ、独爾は我に無難にして世を

渡らしめ給ふ。

第 6 聖詠

主よ、爾の^{いきどおり} 憤^{いかり} を以て我を責むる母れ、爾の^{いかり} 怒^{ほね} を以て我を罰する母れ。主よ、我を憐み給へ、我弱ければなり、主よ、我を^{いひ} 醫^{おのの} し給へ、我が^{はなはだおの} 骸^{おのの} は^{はなはだおの} 慄^{おのの} き、我が^{はなはだおの} 霊^{おのの} も^{はなはだおの} 甚^{おのの} 慄^{おのの} けばなり、爾主よ、^{いづれ} 何^{いづれ} の時に至るか。主よ、^{おもて} 面^{かえ} を^{かえ} 轉^{かえ} し、我が^{いづれ} 霊^{いづれ} を免れしめ、爾の^{いづれ} 憐^{いづれ} に由りて我を救ひ給へ。^{けだし} 蓋^{うち} 死^{うち} の中には爾を記憶するなし、墓^{うち} の中には誰か爾を讃揚せん。我^{なげき} 嘆^{つか} にて憊れたり、毎夜我が^{まいや} 榻^{とこ} を^{あら} 滌^{あら} ひ、我が^{しとね} 涙^{しとね} にて我の^{しとね} 褥^{しとね} を濡す。我が^い 眼^い は^い 憂^い に因りて枯れ、我が^い 諸^い の敵^い に因りて衰へたり。凡そ不法を行ふ者は我を離れよ、^{けだし} 蓋^{けだし} 主^{けだし} は我が泣く声を聞けり、主は我が^{ねがい} 願^{ねがい} を聴き給へり、主は我が^い 禱^い を納れんとす。願^い はくは我が^{はずか} 諸^{はずか} の敵^{はずか} は^{はずか} 辱^{はずか} しめられて痛く撃たれん、願^い はくは退きて^{にわか} 俄^{はじ} に愧^{はじ} を得ん。

第 12 聖詠

主よ、我を全く忘るること^{いづれ} 何^{いづれ} の時に至るか、爾の^{おもて} 面^{おもて} を我に隠すこと^{いづれ} 何^{いづれ} の時に至るか、我が^{うち} 己^{うち} の霊^{うち} の中に謀^{うち} り、心^{うち} の中に^{うち} 日夜^{うち} 憂^{うち} を^{うち} 懷^{うち} くこと^{いづれ} 何^{いづれ} の時に至るか、我が^{いづれ} 敵^{いづれ} の我に高ぶること^{いづれ} 何^{いづれ} の時に至るか。主我が^{いづれ} 神^{いづれ} よ、顧^{あきらか} みて我に聴き給へ、我が^{あきらか} 目^{あきらか} を^{あきらか} 明^{あきらか} にして、我を死の^{あきらか} 寐^{あきらか} に^{あきらか} 寐^{あきらか} ねざらしめ給へ、我が^{あきらか} 敵^{あきらか} が我は彼に勝てりと曰はざらん為、我を^{あきらか} 攻^{あきらか} る者が我の^{あきらか} 撼^{あきらか} く時に喜ばざらん為なり。我爾の^{あきらか} 憐^{あきらか} を^{あきらか} 待^{あきらか} み、我が^{あきらか} 心^{あきらか} 爾^{あきらか} の救^{あきらか} を喜ばん、我恩を施すの主を讃め頌ひ、至上なる主の名を崇め歌はん。

主我が^{あきらか} 神^{あきらか} よ、顧^{あきらか} みて我に聴き給へ、我が^{あきらか} 目^{あきらか} を^{あきらか} 明^{あきらか} にして、我を死の^{あきらか} 寐^{あきらか} に^{あきらか} 寐^{あきらか} ねざらしめ給へ、我が^{あきらか} 敵^{あきらか} が我は彼に勝てりと曰はざらん為なり。

<第 24 聖詠 第 30 聖詠 第 90 聖詠省略>

誦経 光栄は父と子と聖神[°]に帰す、今も何時も世世に、「アミン」。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ、光栄は爾に帰す。(三次、躬拜三次)

(司祭は王門前に出てくる)

司祭 神は我等と^{とも} 偕^{とも} にす、異邦人よ、此を知りて従へよ、神我等と^{とも} 偕^{とも} にすればなり。(イザヤ 8:9-9:7)

(詠) 神は我等と^{とも} 偕^{とも} にす、異邦人よ、此を知りて従へよ、神は我等と^{とも} 偕^{とも} にすればなり。

The musical score is written on three staves. The first staff begins with a treble clef, a key signature of one flat (B-flat), and a common time signature. It contains the melody for the first line of the hymn. The second staff continues the melody for the second line. The third staff begins with a double bar line and a second system number 'II', followed by the melody for the third line. The lyrics are written below the notes in Japanese.

神は我等と ともにす 異邦人よ これを 知りて
偕
したがえよ、 神はわれらと ともに すればな ーり
我等 偕
II
神は我等と ともに すれば な ーり

司祭 地の極までも之^{はて}を聴け、
司祭 権力ある者よ、従へ、
司祭 復^{また}勢^{いきおい}を張らば、復敗^{また}られん、
司祭 謀^{はかりごと}を設けば、主は之^{これ}を毀^{こぼ}たん、
司祭 言^{ことば}を出さば、必^{いまだ}成^{かならず}らざらん、
司祭 爾等の畏るる所は我等畏れず、驚かず、
司祭 主我が神を以て聖と為す、彼は我が畏^{おそれ}とならん、
司祭 我彼を頼まば必ず我を聖にせん、
司祭 我彼を望み、彼に因^よりて救を得ん、
司祭 視^みよ、我及び神が我に興^あへたる諸子^あは此^こに在り、
司祭 幽^{くらやみ}冥^{うち}の中を行く民は^{おおい}大なる光を見たり、
司祭 死の蔭^{かげ}の地に居る者よ、光は爾等を照らさん、
司祭 蓋^{けだし}嬰^{おきなご}は我等の為に生れ、子は我等に賜はりたり、
司祭 権柄^{その}は其肩に在り、
司祭 其^{その}和平は終^{おわり}なし、
司祭 其名^{その}は大^{おおい}なる議事の使者と稱^{とな}へらる、
司祭 神妙なる議士と稱^{とな}へらる、
司祭 大能の神、主宰、和平の君と稱^{とな}へらる、
司祭 来た世の父と稱^{とな}へらる、
司祭 神は我等と偕^{とも}にす、異邦人よ、此^{これ}を知りて従へよ、
司祭 光榮は父と子と聖神[°]に帰す、
司祭 今も何時^{いつ}も世世に、「アミン」、

(もう一度繰り返し)



誦經　主よ、日を送りて爾に感謝す、救世主よ、求む、我に罪なく暮と夜とを^{わた}度らしめて、我を救ひ給へ。

主宰よ、日を送りて爾を讃榮す、救世主よ、求む、我に誘^{いざない}なく暮と夜とを度^{わた}らしめて、
我を救ひ給へ。

聖なる者よ、日を送りて爾を讃頌す、救世主よ、求む、我に無難に暮と夜とを^{わた}度らしめて

我を救ひ給へ。

無形の性のヘルウィムは息めざる歌にて爾を讃め揚げ、六翼の造物セラフィムは絶えざる声にて爾を尊み歌ひ、天使の萬軍は聖三の歌にて爾を崇め讃む、蓋爾は萬有の先より自ら存する父にして、同無原なる爾の子を有ち、同尊なる生命の神を出し、三位の分れざるを顯し給ふ。

至聖なる童貞女・神の母と、親しく聖言を見て之に役めし者と、預言者及び致命者の群よ、死せざる生命を有つに因りて、我等の為に切に祈り給へ、我等皆苦難の中に在ればなり。願はくは我等凶惡の誘を遁れて、天使の歌を歌はん、聖、聖、聖なる三聖の主よ、我等を憐みて救ひ給へ、「アミン」。

誦經 【信經】

我信ず、一の神、父、全能者、天と地、見ゆると見えざる萬物を造りし主を。又信ず一の主イイスス・ハリストス、神の独生の子、萬世の前に父より生れ、光よりの光、真の神よりの真の神、生れし者にて、造られしに非ず、父と一體にして、萬物彼に造られ、我等人人の為、又我等の救の為に天より降り、聖神及び童貞女マリヤより身を取り、人と為り、我等の為にポンティ・ピラトの時十字架に釘うたれ、苦を受け、葬られ、第三日に聖書に應ひて復活し、天にのぼり、父の右に坐し、光榮を顯して生ける者と死せし者とを審判する為に還來り、其國終なからんを。又信ず、聖神、主、生を施す者、父より出で、父及び子と共に拜まれ、讃められ、預言者を以て嘗て言ひしを。又信ず一の聖なる公なる使徒の教會を。我認む一の洗禮、以て罪の赦を得るを。我望む死者の復活、並に來世の生命を、「アミン」。

司祭 全文を歌う「至聖なる女宰生神女よ、我等罪人の為に祈り給へ。」

（詠） 至聖なる女宰生神女よ、我等罪人の為に祈り給へ。



（司祭に続いて、繰り返す）

司祭 聖天使及び天使首の全軍よ、我等罪人の為に祈りたまへ。

司祭 聖預言者イオアン、吾が主イイスス・ハリストスの前驅授洗よ、我等罪人の為に祈りたまへ。

司祭 光明なる聖使徒、預言者、致命者、及び諸聖人よ、我等罪人の為に祈りたまへ。

司祭 克肖捧神なる我が諸神父、全世界の牧者及び教師よ、我等罪人の為に祈りたまへ。

司祭 聖使徒大主教聖ニコライよ、我等罪人の為に祈りたまへ。

司祭 尊くして生命を施す十字架の敗られず量られざる聖なる力よ、我等罪人を離るるなかれ。

司祭 神よ、我等罪人を浄め給へ。
詠隊 同様に全文を繰り返す。
司祭 神よ、我等罪人を浄めて、我等を憐み給へ。
詠隊 下記のメロディで全文を繰り返す。



誦経 [聖三祝文][至聖三者][天主經]

司祭 ^{けだし}蓋 国と権能と光荣は爾父と子と聖神^{いつ}に帰す、今も何時も世世に。
「アミン」。

誦経 読む[降誕祭トロパリ] 4 調

ハリストス我が神よ、爾の降誕は世界に智慧の光を照らせり、此れに由りて星に勤むる者は星に教えられて、爾義の日を拝み、爾上よりの東を悟れり。主よ、光荣は爾に帰す。

誦経 主憐れめよ（1 2 回）

光荣は父と子と聖神^{いつ}に帰す、今も何時も世世に、「アミン」。
ヘルウィムより尊く、セラフィムに^{ならび}並なく栄え、貞操を^{みさお}壊らずして^{やぶ}神言^{かみことば}を生みし実の生神女たる爾を崇め^ほ讃む。
神^{いつ}父よ主の名を以て福を降せ。

司祭 主イイスス・ハリストス我等の神よ、吾が諸聖神^{いつ}父の祈祷に依りて我等を憐み給へ。
誦経 「アミン」。

誦経 [聖大ワシリイの祝文]

主よ、主よ、我等を昼の^{もろもろ}諸の流矢より脱れしめし者よ、我等を闇冥^{くらやみ}に行く^{もろもろ}諸の害より脱れしめ給へ。我が手を舉ぐるを^{くれ}晩の祭として受け給へ。我等に^{あやまち}過なく、悪に誘はれずして、夜の路を^{とお}過らしめ給へ。我等を悪魔より来たる^{もろもろ}諸の紛擾^{みだれ}と畏懼^{おそれ}より脱れしめ給へ。我等の霊に感動を^{あた}興へ、我等の心に畏るべき義なる爾の審判に^{こた}對ふべきことを慮らしめ給へ。我等の體を爾を畏る^{おそれ}畏に釘うち給へ、我等が地に在る肉慾を殺し給へ。我等が^{ねわり}眠の靜なる時にも爾の^{いましめ}誠を見るに因りて照さるるを得しめ給へ。我等より^{もろもろ}諸の妄想と害ある慾とを除き給へ。我等を祈祷の時に興して、我が^{しん}信を固め、爾の^{いましめ}誠を行ふに進ましめ給へ、爾が独生子の慈憐と仁慈に因りてなり。爾は彼と至聖至仁生命を施す爾の神^{いつ}と偕に崇め讃めらる、今も何時も世世に、「アミン」。

誦経 来たれ、我等の王・神に叩拜せん。（叩拜一次）
来たれ、ハリストス我等の王・神に叩拜俯伏せん。（叩拜一次）

来たれ、ハリストス我等の王と神の前に叩拜俯伏せん。(叩拜一次)

誦經

第50聖詠 P182 (時課經 P232)

神よ、爾の大なる憐に因りて我を憐み、爾が恵の多きに因りて我の不法を抹し給へ。
屢我を我が不法より洗ひ、我を我が罪より清め給へ、蓋我は我が不法を知る、我の罪は常に我が前に在り。我は爾独爾に罪を犯し、惡を爾の目の前に行へり、爾は爾の審断に義にして、爾の裁判に公なり。視よ、我は不法に於て妊まれ、我が母は罪に於て我を生めり。視よ、爾は心に真実のあるを愛し、我が衷に於て智慧を我に顯せり。「イッソブ」を以て我に沃げ、然せば我潔くならん、我を滌へ、然せば我雪より白くならん。我に喜と樂とを聞かせ給へ、然せば爾に折られし骨は悦ばん。爾の顔を我が罪より避け、我が盡くの不法を抹し給へ。神よ、潔き心を我に造れ、正しき靈を我の衷に改め給へ。我を爾の顔より逐ふこと母れ、爾の聖神を我より取り上ぐること母れ。爾が救の喜を我に還せ、主宰たる神を以て我を固め給へ。我不法の者に爾の道を教へん、不虔の者は爾に帰らんとす。神よ、我が救の神よ、我を血より救ひ給へ、然せば我が舌は爾の義を讃め揚げん。主よ、我が唇を啓け、然せば我が口は爾の讚美を揚げん、蓋爾は祭を欲せず、欲せば我之を獻らん、爾は燔祭を喜ばず。神に喜ばるる祭は痛悔の靈なり、痛悔して謙遜なる心は、神よ、爾輕んじ給はず。主よ、爾の恵に因りて恩をシオンに垂れ、イエルサリムの城垣を建て給え、其時に爾義の祭、献物と燔祭とを喜び饗けん、其時に人人爾の祭壇に贄を奠へんとす。

第101聖詠 (省略)

誦經

【イウデヤ王マナッシャの祝文】

主全能者、吾が先祖アウラアム、イサアク、イヤコフ、及び其義なる裔の神よ、爾は天地と其都ての飾とを作り、爾が誠の言にて海を縛り、淵を閉ぢ、畏るべくして栄えたる爾の名を以て之を封印せり、萬物は其名を恐れ、爾が力の前に戦く、蓋爾が光榮の莊嚴なる前には誰も立つ能はず、罪人に於ける爾の厳しき怒は堪へ難し、然れども、爾が契約の憐は測り難く、窮め難し、蓋爾は仁慈にして寛忍、鴻恩にして人の罪惡を憂ふる至上の主なり。爾主よ、爾が仁慈の多きに依りて、爾の前に罪を犯しし者に痛悔と赦罪とを契約し、爾が慈憐の多きに依りて、罪人の為に痛悔を定めて救を得しめ給へり。故に爾主、義人の神よ、義にして爾の前に罪を犯さざりしアウラアム、イサアク、イアコフの為には痛悔を立てず、乃我罪人の為に之を立て給へり、蓋我罪を犯ししこと海の砂の数よりも多し。主よ、我が不法は数へ難し、我が不法は数へ難し、我は不義の多きに因りて、仰ぎて天の高きを見るに堪へず。我は多くの鐵の鎖にて屈められ、我が首を擧ぐる能はず、暫時も安んずる能はざるに至れり、蓋我は爾を怒らせ、惡を爾の前に犯し、爾の旨に循はず、爾の命を守らず、穢れし事を行ひ、誘惑を多く為せり。今我が心の膝を屈めて、爾に仁慈を賜ふを祈る。主よ、我罪を犯せり、我罪を犯せり、我は我が不法を知る、然れども爾に祈りて求む、主よ、我を赦し給へ、我を赦し給へ、我を我が不法と共に亡す勿れ、永く我が惡を念ふ勿れ、我を地獄に定むる勿れ。蓋神よ、爾は痛悔する者の神なり、爾の仁慈を傾けて我が上に顯し、爾の大なる憐に因りて我不當の者を救ひ給へ、我生ける中爾を崇め讃めん、蓋天の衆軍は爾を讃め頌う、光榮は爾に世世に歸す、「アミン」。

誦經 【聖三祝文】[至聖三者][天主經]

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。(三次)

光荣は父と子と聖神[°]に帰す、今も何時も^{いつ}世世に、「アミン」。

至聖三者よ、我等を憐め、主よ、我等の罪を^{いさぎよ}潔くせよ、主宰よ、我等の^{あやまち}愆を赦せ、聖なる者よ、臨みて我等の病を癒し給へ、^{ことごと}悉く爾の名に^よ因る。

主憐めよ。(三次)

光荣は父と子と聖神[°]に帰す、今も何時も^{いつ}世世に、「アミン」。

天に在^{いま}す我等の父よ、願はくは爾の名は聖とせられ、爾の国は来たり、爾の旨は天に行はるるが如く地にも行はれん、我が日用の糧^{かて}を今日我等に^{こんにち}與^{あた}へ給へ、我等に^{おいめ}債ある者を我等免^{ゆる}すが如く、我等の^{おいめ}債^{ゆる}を免し給へ、我等を^{いざない}誘に導かず、^{なお}猶我等を凶悪より救ひ給へ。

司祭 ^{けだし}蓋[°]国と権能と光荣は爾父と子と聖神[°]に帰す、今も何時も^{いつ}世世に。

「アミン」。

誦經 読む 【コンダク】

今童貞女は永在の主を生み、地は載せ難き者に洞を獻ず、天の使は牧者と偕に讃め歌ひ、博士は星に従ひて旅す、蓋我等の為に永久の神は嬰兒として生れ給へり。

誦經 主憐めよ。(三次)

光荣は父と子と聖神[°]に帰す、今も何時も^{いつ}世世に、「アミン」。

ヘルウィムより尊く、セラフィムに^{ならび}並なく栄え、貞操を^{みきお}壊^{やぶ}らずして^{かみことば}神言を生みし実の生神女たる爾を崇^ほめ讃む。

神[°]父よ、主の名を以て福を降せ。

司祭 主イイスス・ハリストス我等の神よ、吾が諸聖神父の祈祷に依りて我等を憐めよ。

誦經 「アミン」。

誦經 【祝文】

主宰神父全能者、主独生の子イイスス・ハリストス、及び聖神[°]、^{ゆいいち}唯一の神性、^{ゆいいち}唯一の能力よ、我罪人を憐み、爾が知る所の法を以て我不當の僕を救ひ給へ、^{けだし}蓋[°]爾は世世に崇め讃めらる、「アミン」。

<来たれ、69 聖詠、142 聖詠省略>

誦經 至高きには光荣神に帰し、地には平安降り、人には^{めぐみ}恵臨めり。主天の王、神・父全能者よ、主独生の子イイスス・ハリストス、及び聖神[°]よ、爾の^{おおい}大なる光荣に^よ因りて、我等爾を崇め、爾を讃め揚げ、爾を伏し拜み、爾を尊み歌ひ、爾に感謝す。主神よ、神の^{こひつじ}羔、父の子、世の罪を^{にな}任ひし者よ、我等を憐み給へ、世の^{もろもろ}諸の罪を^{にな}任ひし者よ、我等の^い祷を納れ給へ。父の右に坐する者よ、我等を憐み給へ。爾は独り聖なり、爾は独り主イイスス・ハリストス、神・父の光荣を顕す者なればなり、「アミン」。

我^{やや}夜夜に爾を讃め揚げ、爾の名を世世に崇め歌はん。

主よ、爾は世世に我等の^{かくれが}避所たり。我曾て言へり、主よ、我を憐み、我が^{いや}霊を醫し給へ、

我罪を爾に得たればなり。主よ、爾に^{はし}趨り附く、爾の旨を行ふを我に教え給へ、爾は我の神、生命の源は爾に在ればなり、我等爾の光に於て光を^み觀ん。憐を爾を知る者に恒に垂れ給へ。

〔リティヤのスティヒラ〕＜啓蒙所に全員で移動（日本では司祭だけが移動することが多いが、全員で外または前院で祈ると、リティヤが外の祈りであったことが理解できる）＞

第一調。（修士イオアンの作）。

天地は今日諸預言者と偕に楽しむべし、諸天使と衆人とは属神[°]に祝ふべし、蓋神は童貞女より生れて、肉体を以て幽闇と陰とに坐する者に現れ給へり。洞及び芻槽は彼を受け、牧者は奇蹟を傳へ、東方の博士はヴィフレムに礼物を攜ふ。我等も不当の口を以て天使の如く讃歌を彼に奉らん、至高きには光榮神に帰し、地には平安降り、蓋諸民の期望は来り、来りて我等を敵の奴隷より救ひ給へり。

天地は ^{こん にち}今日 諸 預言者とともに楽しむべし、

諸天使と 衆人とは 属神[°]に祝うべし、

^{けだし}蓋 ^{かみ}神は 童貞女より 生まれて、

^{にくたい}肉体を ^も以て 暗闇と陰とに座する者に 現れたまへり

洞 及び 飼い葉 ぶねは 彼を受け 牧者は 奇蹟をつたえ

東方の博士は ヴィフレムに礼物を たずさう。

われ等も 不当の口を以て 天使の如く 讃め歌を

＜以下略、足りなければ歌う＞

今日ハリストス生れ給ひしに、天と地とは合せられたり、今日神は地に降り、人は天に升れり、本性の見るべからざる者は、今日人の邇に肉体にて見らる。故に我等も彼を讃榮してよばん、至高きには光榮神に帰し、地には平安降り、蓋爾の降臨は之を賜へり。我が救世主よ、光榮は爾に帰す。至高きには光榮神に帰すと、今日我ヴィフレムに於て無形の者が平安を地に賜ひし主に歌ふを聞

く。今童貞女は天より廣し、蓋幽暗に在る者に光を輝かし、謙卑の者を高くして、天使の如く歌はしむ、至高きに光榮は神に歸す。

イイスは像と肖とに形られたる者が犯罪に縁りて朽ちたるを見て、天を傾けて下り、性を易へずして、童貞女の腹に入り給へり、其内に於て、朽ちたるアダムを新にして、よばしめん為なり、我が贖罪主及び神よ、光榮は爾の顯見に歸すと。

光榮、第五調。(修士イオアンの作)。

ペルシヤの王たる博士は明に天の王の地に生れしを知り、光れる星に導かれてウィフレムに至り、精選の礼物、黄金乳香没薬を獻げて、伏して拝めり、洞の中に無原なる赤子の臥し給ふを見ればなり。

今も、第六調。(ゲルマンの作)。

今日ウィフレムに生れし主救世者の為に衆天使は天に在りて楽しみ、人々は歡び、萬物は祝ふ、蓋凡の偶像の迷は熄みて、ハリストスは世々に王となり給へり。

[リティア]

輔祭 神や、爾の民を救ひ、及び爾の嗣業に福を降し給へ、慈憐と洪恩とを以て爾の世界に臨み、正教の「ハリストティアニン」等の角を高くし、我等に爾の豊なる憐を垂れ給へ、至浄なる我等の女宰・生神女。永貞童女マリアの祈りと、生命を施す尊き十字架の力と、無形なる尊き天軍、光榮なる尊き預言者・前驅・授洗イオアン、光榮にして讃美たる聖使徒、我等の聖神父・世界の大教師・成聖者・大ワシリイ、神学者グリゴリイ、金ロイオアン、我等の聖神父ミラリキヤの大主教・奇蹟者ニコライ、我等の聖神父全ロシアの奇蹟者ペトル、アレキシイ、イオナ、フィリップ、我等の聖神父イルクーツクの主教・奇蹟者インノケンティ、光榮なる凱旋の聖致命者、克肖捧神なる我が諸神父、聖にして義なる神の祖父母イオアキムびアンナ、聖某(本堂の聖人)及び悉くの聖人の轉達に因りて、大仁慈の主や、爾に求む、我等罪人爾に禱る者に聆き納れて、我等を憐めよ、

(詠) 主憐めよ、(40次) → 12回 (パニヒダと同じメロディで)

輔祭 又我が国の天皇、其及び国を司る者の為に禱る、

(詠) 主憐めよ、(30次) → 12回

又教會を司る我等の(府)主教(某)、及びハリストスに於ける悉くの我等の兄弟の為、凡そ憂患困難にして神の憐と佑けとを要する「ハリストティアニン」の靈の為、此の聖堂と慎みて此に来る者とを覆はんが為、全世界の安和と整齊との為、神の聖なる諸教會の堅立の為、勉励と神を畏る心とを以て劬勞服役する我等の諸父兄弟を助け救はんが為、参拝するを得ざる者と他出する者との為、病に臥す者を醫さんが為、已に過ぎ去りし悉くの我等の父祖兄弟、此の處と諸方とに葬られたる正教の者の安眠・寛宥・福たる記憶・諸罪の赦免の為、虜となりし者の救はれんが為、務を執る我等の兄弟、及び凡そ此の尊貴なる聖堂に務むる者と嘗て務めし者の為に禱りて曰はん、

(詠) 主憐めよ、(50次) → 12回

輔祭 又此の都邑(修道院に於ては此の聖修道院)凡の都邑と地方が、飢饉・疫病・地震・水難・火難・劍難・外攻・内乱より護られ、我が善にして人を愛する神が仁慈と哀憐とを垂れて、凡そ我等に臨む怒を遏め、其我等に逼る義なる罰より我等を救ひ、及び我等を憐むが為に禱る、

(詠) 主憐めよ、(3次)

輔祭 又主・神が我等罪なる者の禱の声を聆き納れて、我等を憐むが為に禱る、

(詠) 主憐めよ、(3次) (司祭祈禱に挙げる生者死者を默念、)

司祭 (高声) 神我が救世主、地の四極と遠く海に居る者との恃や、我等に聞き給へ、主宰や、我等の罪に慈憐を垂れ、慈憐を垂れて我等を憐み給へ、
蓋爾は慈憐にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ズ、今も何時も世世に、

(詠) 「アミン」

司祭 衆人に平安、

(詠) 爾の神にも

輔祭 我等の首を主に屈めん、

(詠) 主爾に

(衆人首を屈めて地に俯す)

司祭 (高声) 主宰大仁慈なる主イイスス・ハリストス我等の神や、至浄なる我等の女宰・生神女・永貞童女マリ
アの禱と、生命を施す尊き十字架の力と、無形なる尊き天軍、光榮なる尊き預言者・前驅・授洗イオアン、
光榮にして讃美たる聖使徒、光榮なる凱旋の聖致命者、克竹捧神なる吾が諸神父、我等の聖神父・世
界の大教師・成聖者大ワシリイ、神学者グリゴリイ、金ロイオアン、我等の聖神父ミラリキヤの大主教・奇
蹟者ニコライ、我等の聖神父全ロシヤの奇蹟者ペトル アレキシイ イオナ フィリップ、我等の聖神父イ
ルクーツクの主教・奇蹟者インノケンティ、聖にして義なる神の祖父母イオアキム及びアンナ、聖某(本堂
の聖人の名を挙グ)及び爾が悉くの聖人の転達に因りて、我等の祈禱を聆き納れ、我等に罪過の赦を
賜ひ、我等を爾が翼の蔭に覆ひ、諸の仇敵を我等より遠ざけ、我等の生命を平安ならしめ給へ、主や、
我等と爾の世界とを憐み、并に我等の靈を救ひ給へ、爾は善にして人を愛する主なればなり、

(詠) アミン

【挿句のスティヒラ】<誦経者は早めに定位置に戻って読む。歌ってもよい>

第二調。(ゲルマンの作)。

今日至大至榮なる奇蹟は行はれたり、童貞女は生みて胎は損はれず、言は身を取りて父を離れず。
諸天使は牧者と偕に讃榮し、我等も彼等と偕によぶ、至高きには光榮神に歸し、地には平安降り。

第三調

句、我黎明の前に腹より爾を生めり、主は誓ひて悔いず。

今日童貞女は萬有の造成主を生む。エデムは洞を奉り、星は黑暗に在る者に日たるハリストスを示
し、博士は信に照され、礼物を獻じて伏拝し、牧者は奇蹟を見、諸天使は讃詠して曰ふ、至高き
には光榮神に歸す。

同調 (アナトリイの作)。

句、主我が主に謂へり、爾我が右に坐せよ。

主イイススがイウデヤのウィフレムに生れし時、東より博士来りて、人体を取りし神に伏拝し、
其寶盒を啓きて、熱心に貴き礼物を獻じたり、其世々の王たるに由りては鍊金を、萬有の神たるに
由りては乳香を、不死の三日の死者たるに由りては没薬を。萬民来りて、我等の靈を救はん為に生
れ給ひし主に伏拝せん。

光榮は父と子と聖神に歸す、

第四調。(修士イオアンの作)。

イエルサリムよ、樂しめ、シオンを愛する者よ、皆祝へ。今日アダムの定罪の久しき縲紲は釋かれ、
樂園は我等の為に啓かれ、蛇は虚しくせられたり、蓋其先に誘ひし者が今造物主の母と為りしを見
たり。嗚呼深い哉神の富と智慧と知識や、凡の肉身の為に死の縁由と為りし者、罪の器は、生神女
に縁りて、全世界の救の首と為れり、蓋純全なる神は赤子として彼より生れ、其生るるを以て童貞
を封印し、襁褓を以て罪の縛を解き、嬰兒たるを以てエワの産痛の患を醫し給ふ。故に萬物は祝ひ

て楽しむべし、蓋ハリストスは之を新にし、且我等の霊を救はん為に來り給へり。

今も、何時も世世にアミン 同調。

ハリストス神よ、爾は洞に入り給へり、芻槽は爾を受け、牧者と博士とは伏拝せり。其時諸預言者の宣伝は應へり、天使の軍は奇としてよびて曰へり、独人を愛する主よ、光榮は爾の寛容に歸す。

(詠) シメオンの祝文

主 宰よ、 いま ^{なんじ} 爾 の ことばに ^{した} 従 がいて、
^{なんじ} 爾 の 僕をゆるし 安然と してゆか し—む。
蓋 我が 目は ^{なんじ} 爾 の ^{すく} 救 いを 見たり、
なんじが 万民の前に そなえしものなり。
是れ 異邦人を照らす ひ か り、
^{およ} 及び ^{なんじ} 爾の民 イズライリの ^{さかえ} 榮 なり。

誦經 **【聖三祝文】【至聖三者】【天主經】**

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。(三次)

光榮は父と子と聖神^{いつ}に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

至聖三者よ、我等を憐め、主よ、我等の罪を^{いさぎよ}潔くせよ、主宰よ、我等の^{あやまち}愆を赦せ、聖なる者よ、^{のぞ}臨みて我等の病を癒し給へ、^{ことごと}悉く爾の名に因る。

主憐めよ。(三次)

光榮は父と子と聖神^{いつ}に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

天に在す我等の父よ、願はくは爾の名は聖とせられ、爾の国は來たり、爾の旨は天に行はるるが如く地にも行はれん、我が日用^{かて}の糧^{こんにち}を今日我等に與^{あた}へ給へ、我等に^{おいめ}債ある者を我等免^{ゆる}すが如く、我等の^{おいめ}債^{ゆる}を免し給へ、我等を^{いざない}誘に導かず、猶我等を凶惡より救ひ給へ。

司祭 ^{けだし}蓋 国と権能と光榮は爾父と子と聖神^{いつ}に歸す、今も何時も世世に。

(詠) 「アミン」

【降誕祭トロパリ】 4 調 （ニコライのトロパリと同じメロディ） 3 回

ハリストス我が神よ、／爾の降誕は世界に智慧の光を照らせり、
此れに由りて星に勤むる者は／星に教えられて、
爾義の日を拝み、／爾上よりの東を覚えり。
主よ、光栄は爾に帰す。

ハリストス 我が かみや 爾の降誕は世界に知恵の光を照らせり

これによって星に勤むるものは 星に 教えられて

爾 義の日を おが ー み 爾上よりの東を覚えり

主や、光栄は 爾に 帰 す

司祭 主に祈らん

(詠) 「主、憐れめよ」

司祭 主イイススハリストス我等の神、五餅に福を降ろして五千人を飽かしめし・・・

(詠) 「アミン」

「願わくは 主の名は 崇め讃められ 今より 世々に至らん」 3 回

司祭 [発放詞] 願わくは主の降福は、其の恩寵と仁愛とに因りて常に爾等に在らん、今も何時も世々に

(詠) 「アミン」

早課へ

早 課



(3 回)



(2 回)

【六段の聖詠】

【第 3 聖詠】

主よ、我が敵は何ぞ多き、多くの者は我を攻む、多くの者は我が 霊^{たましい}を指して、彼は神より救いを得ずと云ふ。然れども主よ、爾は我を衛る盾なり、我の榮なり、爾は我が首^{こうべ}を挙ぐ。我が声^{こゑ}を以て主に呼ぶに、主はその聖山より我に聴き給ふ。我臥し、寝ね、又覺む、主は我を扞ぎ衛ればなり。環りて我を攻むる万民は、我之を懼れざらん。主よ、起きよ、吾が神よ、我を救い給へ、蓋爾は我が諸敵の頬を批ち、悪人の齒を折けり。救いは主に依る、爾の降福は爾の民に在り。我臥し、寝ね、又覺む、主は我を扞ぎ衛ればなり。

【第 3 7 聖詠】

主よ、爾の 憤^{いきどお}りを以て我を責むる母れ、爾の怒りを以て我を罰する母れ、蓋爾の矢は我に刺さり、爾の手は重く我に加わる。爾の怒りに依りて我が肉に傷まざる所なく、我の罪に因りて我が骨は安きを得ず、蓋我が不法は我が首^{こうべ}に溢れ、重任の如く我を圧す、我の無智に依り我が傷腐れて且つ臭し。我屈まりて仆れんとし、終日憂ひて行く、蓋我が腰は熱に悩まされ、我が肉に傷まざる所なし。我力衰えて痛く憊れ、我が心の裂くるによりて號ぶ。主よ、我が 悉くの願いは爾の前に在り、我が歎息は爾に隠るるなし。我が心は戦い栗き、我が力は我より脱け、我が目の光も已に我にあるなし。我が朋と親しき者とは我が傷を見て離れ、我が親戚は遠ざかりて立つ。我が生命を覓むる者は網を設け、我を害^{そこな}わんと欲する者は我が淪亡のことを言いて、毎日悪しき 謀^{はかりごと}を圖む、然れども我は 聾^{みみしい}の如く聴かず、啞^{おうし}の如く己の口を啓か

ず、是に於て我は聞くなく、その口に答うる所なき人の如くなれり、蓋主よ、我爾を恃む、
主我が神よ、爾聴き給わん。我言えり、願はくは敵は我に勝たざらん、我が足のつまづ 踏く時、彼等
は我に向いて誇り高ぶる。我殆どほとん 仆れんとす、我の憂うれい は常に我が前に在り。我は我が不法を
認め、我が罪の為に甚哀む。我が敵は生きて愈強いよいよ く、故なくして我を疾む者は益多ますます し、
悪を以て我の善に報ゆる者は、我が善に従うに因りて我の敵となれり。主我が神よ、我を遣つ
る母れ、我に遠ざかる母れ、主我の救主よ、速に來たりて我を救ひ給え。主我が神よ、我を
遣つる母れ、我に遠ざかる母れ、主我の救主よ、速すみや かに來たりて我を救ひ給え。

【第62聖詠】

神よ、爾は我の神なり、我曉より爾を尋ぬ、我が靈は渴きて爾を望み、我が身は空しくし燥
ける水なき地にありて、痛く爾を慕ふ、爾の能力と爾の光榮とを見ん為なり、我が曾て爾を聖所
に觀しが如し、蓋爾の愛憐は生命に愈る。我が口爾を讚美せん。是くの如く我生ける時爾を崇
め讚め、爾の名に依りて我が手を挙げん。我が靈の飽かさるること脂油を以てするが如く、
我が口飲よろこ びの声にて爾を讚美す、榻にて爾を記憶し、夜更に爾を思ふ時に在り。蓋爾は我の
扶助なり、爾が翼たすけ の蔭に於て我欣よろこ ばん、我が靈は親しく爾に付き、爾の右の手は我を扶く。
彼の我が靈を害たましい はんことを謀る者は地の深き處に降らん、彼等刃そこな にかかりて、狐の獲物
とならん。惟王は神の為に樂しまん、凡そ彼を以て誓ふ者は譽れを得ん、蓋いつわりを言ふ
者の口は塞ふさ がれんとす。夜更に爾を思ふ、蓋爾は我の扶助なり、爾が翼やこう の蔭に於て我欣けだし ば
ん、我が靈は親しく爾に付き、爾の右の手は我を扶く。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ、光榮は爾に歸す。（3次）

<以下、87, 102, 142 聖詠省略>

【大連禱】

輔祭 我等安和にして主に禱らん、（詠）主 憐めよ
輔祭 上より降る安和と我等が靈の救いの為に主に禱らん、
輔祭 全世界の安和神の聖なる諸教会の堅立、及び衆人の合一の為に主に禱らん
輔祭 此の聖堂、及び信と慎みと神を畏る心とを以て此に來る者の為に主に禱らん、
輔祭 教会を司る我等の主教（某）、司祭の尊品、ハリストスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆
人の為に主に禱らん、
輔祭 我が国の天皇及び国を司る者の為に主に禱らん、
輔祭 此の都邑と凡の都邑と地方、及び信を以て此の中に居る者の為に主に禱らん、
輔祭 氣候順和、五穀豊饒、天下泰平の為に主に禱らん、
輔祭 航海する者、旅行する者、病を患うる者、艱難に遭う者、虜となりし者、及び彼等の救い
の為に主に禱らん、
輔祭 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るが為に主に禱らん、

輔祭 神や、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、

輔祭 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光栄の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

(詠) 主 爾に

司祭 (高声) 蓋凡そ光栄尊貴伏拝は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、 (詠)「アミン」

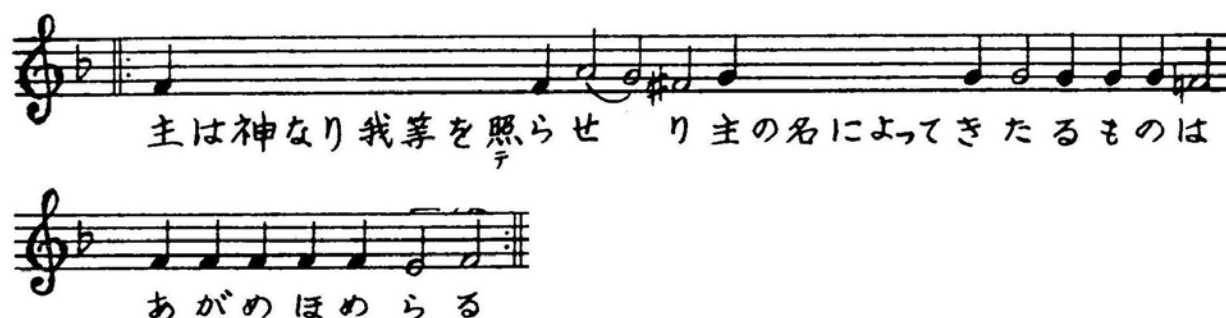
【主は神なりとトロパリ】 日本では3回だが、本来は下記の句に続いて4回。第4句に続いてトロパリ。

主は神なり我等を照せり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる、「主は神なり…」

(第1句) 主を尊み讃めよ、彼は仁慈にして其憐は世世にあればなり、「主は神なり…」

(第2句) 彼等我を囲み我を環れども、我主の名を以て之を敗れり、「主は神なり…」

(第3句) 我死せず、猶生きて主の行ふ所を伝へん、「主は神なり…」



(第4句) 工師が棄てし所の石は屋隅の首石となれり、是主のなす所にして我等の目に奇異なりとす、



主の名をほめあげよ 主のよほくやほめあげよ

ア リルイヤーア リルイヤーア リルイヤー

イエルサリムにましますの主は シオンにあがめほめらる

ア リルイヤーア リルイヤーア リルイヤー

主をととみほめよ アリルイヤー リルイヤー

かれは仁慈にしてそのあわれみは世世にあれば

な りアリルイヤー 天のかみをととみほめよ

アリルイヤー リルイヤーそのあわれみは世

世にあれば な りアリルイヤー

讃歌

生命を賜ふハリストスよ、我等爾今我等の為に婚姻を識らざる至浄なる童貞女マリヤより身にて生れ給ひし主を讃揚す。

讃歌 ズナメニイ

いのちを たまう ハリス トス よ

われら なんじ いま われらの ために

婚 姻 を 知らざる 至 浄 なる 童 貞 女 マリヤ よーり

身 に て 生 ま れ た ま い し 主 を 讃 揚 す

【小連祷】

【アンティフォン】 4 調 （祭日は歌う）

我が 幼き と-き- より 多くの欲は 我を 攻む

救世主や なんじ み-ず から 我を守り防ぎて 救いた まえ

シオン を、にくむ ものや、 主よりはじを受け よ

くさの 火に 焼かるるがごとく なんじも つくされん

光 えいは ちちと子と 聖神 に 帰 す



ポロキメン、第四調。

我黎明の前に腹より爾を生めり、主は誓ひて悔いず。

句、主我が主に謂へり、爾我が右に坐して、我が爾の敵を爾の足の台と為すに迄れ。



輔祭 主に祷らん、

(詠) 主、憐れめよ

司祭 (高声) 蓋我が神や、爾は聖にして聖なる者の中に居る、我等光栄を爾父と子と聖神に献ず、
今も何時も世世に、

(詠) 「アミン」

司祭 凡そ呼吸ある者は主を讃め揚げよ、 (詠) 凡そ呼吸ある者は主を讃め揚げよ、(まっすぐ)

司祭 (句) 神を其聖所に讃め揚げよ、彼を其有力の穹蒼に讃め揚げよ、

(詠) 凡そ呼吸ある者は主を讃め揚げよ、(まっすぐ)

司祭 凡そ呼吸ある者は

(詠) 主を讃め揚げよ、

司祭 我等に聖福音經を聴くを賜うを主・神に祷らん、

(詠) 主憐めよ (3次)

輔祭 睿智肅みて立て、聖福音經を聴くべし、

司祭 衆人に平安、

(詠) 爾の神にも、

司祭 (某) 伝の聖福音經の読み、 (詠) 主や、光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す、(まっすぐ)

福音経はマトフェイニ端。

イイススハリストスの生まること*左の如し、其母マリヤ、イオシフに聘せられて、未だ婚せざる先に、聖神に由りて孕めること見れたり。其夫イオシフは義人にして、これを顕にせしことを欲せず、私に彼を離さんことを望めり。然れども此の事を思へる時、視よ、主の使夢に彼に現れて曰へり、ダワイドの子イオシフよ、爾の妻マリヤを納るることを懼るる勿れ、蓋其内に孕まれし者は聖神に由るなり、彼は子を生まん、爾其名をイイススと名づけん、彼其民を其罪より救はんとすればなり。凡そ此の事の成りしは、預言者を以て言いし所に應ふを致す、曰く、視よ、童女孕みて子を生まん、其名はエムマヌイルと称へられん、訳すれば神我等と偕にするなり。イオシフ寝より起きて、主の使の彼に命ぜし如く 行い、其妻を納れたり。惟未だ室を同じくせざるに、其冢子を生むに及べり、則其名をイイススと名づけたり。

【第 50 聖詠】

神や、爾の大なる憐に因て我を憐み、爾が恵の多きに因て我の不法を抹し給へ。屡我
を我が不法より洗ひ、我を我が罪より清め給へ、蓋我は我が不法を知る、私の罪は常に我が前
に在り。我は爾獨爾に罪を犯し、悪を爾の目の前に行へり、爾は爾の審断に義にして、爾
の裁判に公なり。夫我は不法に於て妊まれ、我が母は罪に於て我を生めり。夫爾は心に眞實
のあるを愛し、我が衷に於て智慧を我に顯せり。「イソブ」を以て我に沃げよ、然せば我潔くなら
ん、我を滌へよ、然せば我雪より白くならん。我に喜と樂とを聞かし給へよ、然せば爾に折ら
れし骨は欣ばん。爾の顔を我が罪より避け、我が盡くの不法を抹し給へ。神や、清潔き心を
我に造り、正直き靈を私の衷に改め給へ。我を爾の顔より逐ふこと勿れ、爾の聖神を我より
取上ること勿れ。爾が救ひの喜を我に還し、主宰たるの神を以て我を固め給へ。我不法の者
に爾の道を教へん、不虔の者は爾に歸らんとす。神や、我が救ひの神や、我を血より救ひ給へ、
然せば我が舌は爾の義を讃揚げん。主や、我が唇を啓けよ、然せば我が口は爾の讃美を揚
げんとす、蓋爾は祭を欲せず、欲すれば我之を献らん、爾は燔祭を喜ばず。神に喜ばる
の祭は痛悔の靈なり、痛悔して謙遜なるの心は、神や、爾輕じ給わず。主や、爾の恵に因
て恩をシオンに垂れ、イエルサリムの城垣を建て給へ。

<この間に交替で祝福を受けに行く>

続いて

スティヒラ

光栄は 父と子と 聖神に 帰 - す 万有は 今日喜びに
満てらる ハリストスは 童貞女より 生まれ たまえり
いまも いっつも 世 世にアミン 万有は 今日喜びに
満てらる ハリストスは ヴィフレエムに 生まれたたまえり
神や、爾の大いなる 憐れみに よって 我を 憐 れ - み
爾が恵みの 多きに よって 我的不法を 抹した ま - え
至高きには光栄 神に 帰 し 地には平安 く だ - り
今日ヴィフレエムは 常に父とともに座する 者を 受 - け
今日 諸天使は生まれし^{おさなご} 嬰兒を 神に^{かな} 適うが如く 讃 栄 す
至高きには光栄神に 帰 - し 地には 平安 く だ - り
人には め ぐ み の ぞ め - り

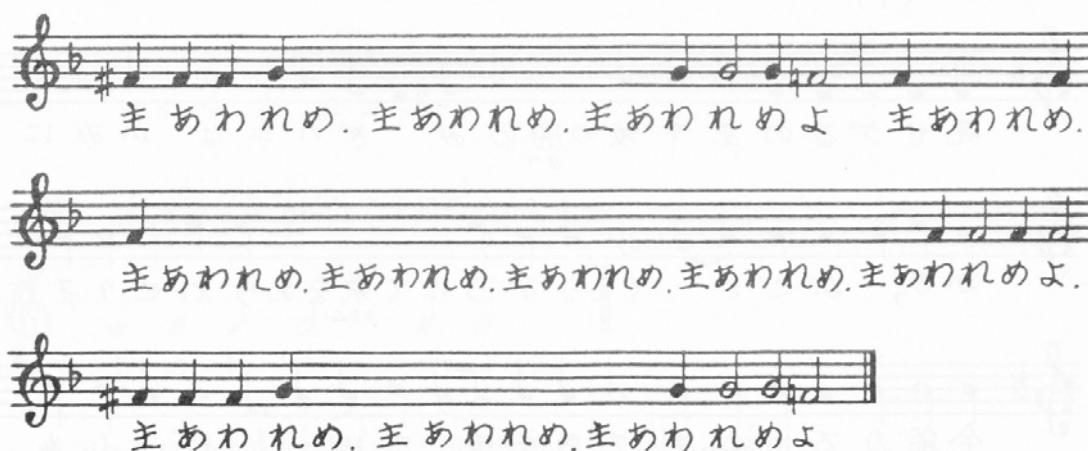
輔祭 神や、爾の民を救ひ、及び爾の嗣業に福を降し給へ、慈憐と洪恩とを以て爾の世界に臨み、正教の「ハリストティアニン」等の角を高うし、我等に爾の豊なる憐を垂れ給へ、至浄なる我等の女宰・生神女。永貞童

女マリアの祈りと、生命を施す尊き十字架の力と、無形なる尊き天軍、光栄なる尊き預言者・前駆・授洗イオアン、光栄にして讃美たる聖使徒、我等の聖神父・世界の大教師・成聖者・大ワシリイ、神学者グリゴリイ、金ロイオアン、我等の聖神父ミラリキヤの大主教・奇蹟者ニコライ、我等の聖神父全ロシアの奇蹟者ペトル、アレキシイ、イオナ、フィリップ、我等の聖神父イルクーツクの主教・奇蹟者インノケンティ、光栄なる凱旋の聖致命者、克肖捧神なる我が諸神父、聖にして義なる神の祖父母イオアキムびアンナ、聖某(本堂の聖人)及び悉くの聖人の転達に因りて、大仁慈の主や、爾に求む、我等罪人爾に禱る者に聆き納れて、我等を憐めよ、

(詠) 主憐めよ、12 次

(高声) 爾が独生子の仁慈と慈憐と仁愛とに因りてなり、爾は彼と至聖至善にして生命を施す爾の神と偕に讃揚せらる、今も何時も世世に、

(詠) 「アミン」



カノン 第一調。

第一歌頌

イルモス、ハリストス生る、崇め讃めよ、ハリストス天よりす、迎へよ、ハリストス地に在り、上れよ、地挙りて主に歌へよ、人々よ、楽しみて讃め揚げよ、彼光栄を顕したればなり。



附唱 主よ光栄は爾の聖なる降誕に帰す。

もとかみ かたど つく つみ よ くさ まった やぶれ したが いとうらら しんせい いのち うしな
原神に像りて造られ、罪に由りて腐れ、全く朽壞に従ひて、最美しき神聖なる生命を失ひ

し者を、睿智なる造成主は改め造り給ふ、彼光榮を顯したればなり。

附唱 主よ光榮は爾の聖なる降誕に帰す。

造物主は其手にて造りし人の亡ぶるを見て、天を傾けて降り、神聖なる潔き童貞女より實に身を取りて、人の全性を活かし給ふ、彼光榮を顯したればなり。

光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

睿智と言と能力、父の子及び光なるハリストス神は、天上又地上の有能者に奥密を顯さずして人と爲りて、我等を新にし給へり、彼光榮を顯したればなり。

第三歌頌

イルモス、世の無き前に分離なく父より生れし子、末の日に種なく童貞女より身を受けしハリストス神に呼ばん、我等の角を高くせし主よ、爾は聖なり。



附唱 主よ光榮は爾の聖なる降誕に帰す。

上よりの吹嘘に與りたる土のアダム、女の誘の爲に朽壞に従いし者は、ハリストスが女より生るるを見て顫ぶ、吾が爲に我に似たる者と爲りし主よ、爾は聖なり。

附唱 主よ光榮は爾の聖なる降誕に帰す。

朽ち易くして低き合成に與りて、其の受けたる賤しき身に神の性を合せ、人と爲りて神たるを失はずして、我等の角を高くせしハリストス主よ、爾は聖なり。

光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

ワフレエム、イウダの諸侯の王城よ、樂しめ、蓋イスライリの牧者、ヘルウィムの肩に在る主ハリストス、顯に爾より出でて我等の角を高くせし者は萬衆の王と爲れり。

【小連祷】

第四歌頌

イルモス、イエッセイの根より生ぜし枝及び其花なる讚美たるハリストスよ、爾は童貞女より出で給へり。形なき

者且神よ、爾は夫に適かざる者より身を取りて、樹蔭繁き山より来給へり。主よ、光榮は爾の力に歸す。



イエッセイの根より生ぜしえだ及びそのはななる讚美たる
 ハリストスよ 爾は 童貞女より 出でたまえり かたちなき者
 かつかみや なんじは 夫に 適かざる者より 身を取りて
 こかげ 樹蔭 繁き 山より 来たりたまえり 主や 光榮は 爾に 歸す

附唱 主よ光榮は爾の聖なる降誕に歸す。

昔^{むかし} イアコフの^{よげん}預言して、萬民^{ばんみん}の^ま俟つ^{ところ}所の^{もの}者と名づけしハリストスよ、爾^{なんじ}はイウダの^{ぞく}族より^{かがや}輝き
 出で^{きた}、來りて、ダマスキ^{けん}の^{ばんどり}權とサマリヤの^{うば}擄物とを奪ひ、迷^{まよ}に代へて、神に^か適ふ^{かみ}教^{かな}を立て^{おしえ}給^{たま}
 へり。主よ、光榮は爾^{しゅ}の^{こうえい}力^{なんじ}に^{ちから}歸^きす。

附唱 主よ光榮は爾の聖なる降誕に歸す。

主宰^{しゅさい}よ、爾^{なんじ}はイアコフより出づる^い星^{ほし}として^{ひか}光り、古^{いにしえ}の^{よげん}預言者^{しや}ワラアムの^{ことば}言^{まも}を守りて^{ほし}星^{まな}を學ぶ
 智者^{ちしや}、異邦民^{いほうみん}の^{はつもの}初物として^{なんじ}爾^{みちび}に^{もの}導^{よるこび}かれたる^み者を^{あきら}悦^かに^れ充てて、明^{あきら}に^か彼等^れを受け^う給^{たま}
 へり。主よ、光榮は爾^{しゅ}の^{こうえい}力^{なんじ}に^{ちから}歸^きす。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々にアミン

ハリストスよ、爾^{なんじ}は童貞女^{どうていじよ}の^{はら}腹^{くだ}に降りしこと、雨^{あめ}が羊^{ひつじ}の^け毛^{くだ}に降るが如く、點滴^{ごと}が地^{したたり}に墜^ちつるが
 如し。救世主^{きゅうせいしゅ}よ、エフィオピアとファルシス、アラウィヤの^{しよとう}諸島とミディヤの^{ぜんち}サワ、全地^{けん}に^と權^とを執
 る^{もの}者は^{なんじ}爾^ふに^{ふく}俯伏^{しゅ}せり。主よ、光榮は爾^{こうえい}の^{なんじ}力^{ちから}に^き歸^きす。

第五歌頌

イルモス、和平の神、仁慈の父よ、爾我等に和平を賜ふ爾の大なる議事の使者を遣し給へり。故に我等神を知る
 光に導かれて、夜過ぎて朝に爾人を愛する主を崇め讃む。



附唱 主よ光栄は爾の聖なる降誕に帰す。

ハリストスよ、爾はケサリの命に従ひて、僕の籍に登りて、我等敵と罪との僕たる者を自由に
 し、全く我等の如く貧しくなりて、此の合一と體合とを以て塵に屬する者を神成し給へり。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

視よ、古に預言せし如く、童貞女は孕みて、人と爲りし神を生みて、童貞女たるを失はず。
 我等罪なる者は彼に依りて神と和睦し、信を以て眞の生神女を讃め歌はん。

第六歌頌

イルモス、海の猛獣はイオナを受けしまま産児の如く腹より出せり。童貞女に入りて身を受けし言は其傷なきを
 守りて通れり、蓋自ら壞に従はず、生みし者をもそこなわずして守り給へり。



附唱 主よ光栄は爾の聖なる降誕に帰す。

父が黎明の前に腹より生み給ふハリストス吾が神は人體を以て來り、至淨なる天軍を司る
主は家畜の芻槽に置かれ、襁褓に裹まるれども諸罪の重れる縲紲を解き給ふ。

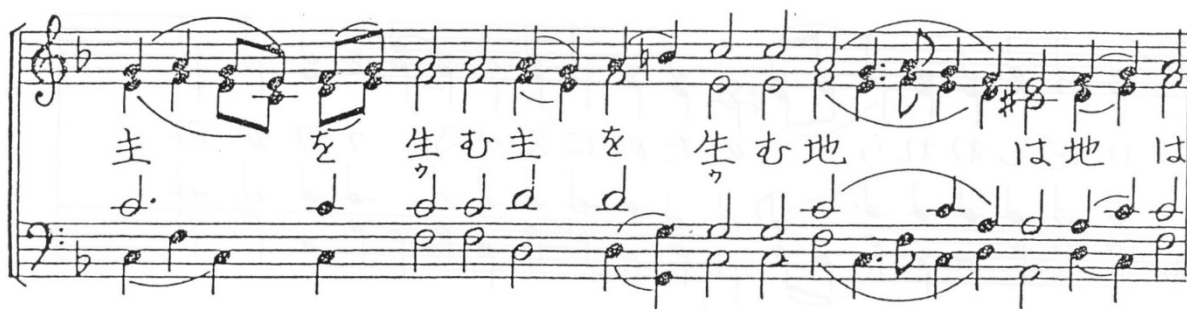
光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

アダムの合成より新なる嬰兒は生れ、子は信者に賜はりたり。彼は來世の父及び幸にして、
大なる議事の使者と稱へらる、彼は大能の神にして、萬物を其權に保ち給ふ主なり。

【小連祷】

小讃詞、第三調。

今童貞女は永在の主を生み、地は載せ難き者に洞を獻ず、天の使は牧者と偕に讃め歌ひ、博士は星に従ひて
旅す、蓋我等の為に永久の神は嬰兒として生れ給へり。 <イコス省略>



め う とうほめ う とう はか せ は は か せ

は ほ し に し た が っ た ひ する た び する

け だ し わ れ ら の た め に え い き う の か み

み じ り ご と し て う ま れ た り み じ り ご と し て

う ま れ た り

第七歌頌

イルモス、偕に敬虔に養はれし少者は、不虔の命を顧みずして、火の嚇を恐れず、乃焰の中に立ちて歌へり、先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。



附唱 主よ光榮は爾の聖なる降誕に帰す。

笛を吹く牧者は奇妙なる光の顯見に遇へり、蓋主の光榮は彼等を照し、天使は籲びて曰へり、讃め歌へ、ハリストス生れたればなり。先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

附唱 主よ光榮は爾の聖なる降誕に帰す。

天使の言に従ひて倏天軍は籲べり、至高きには光榮神に歸し、地には平安降り、人には恵臨めり、ハリストスは出でて光る。先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

牧者曰へり、此の言は何ぞや、往きて、成りし事、神聖なるハリストスを觀ん、乃ウィフレムに至り、伏拝して、生みし者と與に歌へり、先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

第八歌頌

イルモス、露を出す爐は天然に超ゆる奇蹟の象を顕せり、蓋受けし所の少者を焚かず、神性の火が入りし所の童貞女のを焚かざる如し。故に我等歌ひて呼ばん、悉く造物は主を崇めて、萬世に讃め揚げよ。





附唱 主よ光栄は爾の聖なる降誕に帰す。

ワフィロンの女は虜にせられしダウィドの子をシオンより牽きて己に就かしめ、自ら己の子たる博士を遣し、獻物を齎して、神を己の内に受けしダウィドの女に伏拝せしむ。故に我等歌ひて呼ばん、悉くの造物は主を崇めて、萬世に讃め揚げよ。

附唱 主よ光栄は爾の聖なる降誕に帰す。

悲は樂器を遠ざけたり、蓋シオンの諸子は異邦の地に在りて歌はざりき、ワフレエムに出でて光れるハリストスはワフィロンの悉くの迷謬と音樂の調和とを解き給へり。故に我等歌ひて呼ばん、悉くの造物は主を崇めて、萬世に讃め揚げよ。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

ワフィロンはシオンの國の獲物と掠めたる富とを取れり、ハリストスは導く星を以て其寶と星學者たる王とをシオンに就かしめ給ふ。故に我等歌ひて呼ばん、悉くの造物は主を崇めて、萬世に讃め揚げよ。

第九歌頌

イルモス、我奇異にして至榮なる秘密を瞻る、洞は天と為り、童貞女はヘルウィムの寶座と為り、芻槽は容れ難きハリストス神の臥し給ふ置き所と為れり、我等歌ひて、彼を崇め讃む。



わがたましいよ 天軍より尊貴 光栄なる

童貞女 至浄なる 生神女を 讃めあげよ

われ 奇異にして 至栄なる 秘みつをみる

ほらは 天となり 童貞女は ヘルビムの 宝座となり

かいばぶねは 容れ難き ハリストス 神の 臥し給う置き所となれり

我等歌いて 彼を 崇め 讃め む

附唱 我が霊よ、洞に生れし王を讃め揚げよ。

博士は、新に顯れて著しく天に光れる奇異なる新星の常ならぬ運行を觀て、ハリストス王の我等の救の爲に地上にウィフレムに生れしを悟れり。

附唱 我が霊よ、博士に伏拝せられし神を讃め揚げよ。

星の顯しし新に生れたる幼き君は何處にか在る、我等之に伏拝せん爲に來れりと、博士の言ひし時、イロドは心騒ぎて大に怒り、神の敵としてハリストスを殺さんことを謀れり。

附唱 我が霊よ、ハリストス王を生みし潔き童貞女、唯一の生神女を讃め揚げよ。

イロドは、博士を導きて禮物を攜へウィフレムにハリストスに伏拝せしむる星の現れし時を問へり、唯彼等は星に依りて故土に送られて、無慙なる殺兒者を辱しめたり。

【小連祷】

光耀歌

我等の救世主、東の東は、上より我等に望みしに、幽暗と陰翳とに居る者は眞實を獲た

り、蓋主は童貞女より生れ給へり。(本来3回→ソロー回)

われらの 救主 ひがしの ひがしは
うえより われらに のぞみしに
くらやみと かげとに おるものは
真じつを 得たり けだし 主 は
童貞女より うまれたり

「凡そ呼吸ある者」とスティヒラ (スティヒラは省略)

凡そ呼吸ある者 4調

凡そ呼吸ある者は 主を 讃めあげよ 天より主を 讃めあげよ
至とたかきに彼を 讃めあげよ 讃め歌は 爾 かみに
帰 - す その 悉くの神使や彼を 讃めあげよ その 悉くの
軍や、彼を 讃めあげよ 讃め歌は 爾 かみに 帰 - す

<スティヒラ省略>

光栄は、今も、第二調。(修士イオアンの作)。

今日ハリストスはウィフレムに童貞女より生る、今日始なき者は始を受け、言は身を取り給ふ。天軍は喜び、地は人々と偕に楽しみ、博士は主宰に礼物を捧げ、牧者は生れし者を奇とす。我等は絶えずよぶ、至高きには光栄神に歸し、地には平安降り、人には恵臨めり。

2 調

光栄は父と子と聖神に歸す、今も 何時も 世 世 - にアミン

今日ハリストスはウィフレムに 童貞女 より 生る、今日始めなき者は

始めを受- - け 言は身を取りたまう 天軍は よろこ - - び

地は人々と共に 楽 し- - - み 博士は主宰に礼物をささ げ

牧者は生まれし者を奇 と す 我等は絶えず 呼- - - ぶ

至高きには光栄 神に 歸 し、 地には平安 く だ - - り

人には め ぐ み の ぞ め - り

【大頌栄】

司祭 光栄は爾我等に光を顯せる主に歸す、

♪ 至高きには光栄神に帰し、地には平安降り、人には恵み臨めり。)



1. 主 天の王、神・父 全能者よ、主 ^{どくせい}独生の子 イイスス・ハリストス、及び ^{せいしん}聖神よ、



＜以下同様に A B 繰り返して歌う＞

2. 爾の大なる光榮に^よ因^りて、我等 爾を崇め、爾を^ほ讃^め揚^あげ、

爾を伏し拜み、爾を尊みうたひ／、爾に感謝す。

3. 主 神よ、神の 煮、父の子、世の罪を任ひし者よ、我等を 憐み給へ、

世の諸の罪を任ひし者よ、我等の禱りを納れ給へ。

4. 父の右に坐する者よ、我等を 憐み給へ。

5. 爾は独り**聖なり**／、爾は独り主イイスス・ハリストス、神・父の^{ひと}光榮を 顯す者なればなり、「アミン」

6. 我 日々に 爾を ^ほ讀め^あ揚げ、爾の名を 世世に 崇め歌はん。

7. 主よ、我を守り／罪なくして この日を度らせ給へ。

8. 主 吾が先祖の神よ、爾は 崇め讃められ 爾の名は 世々に 尊み歌わる「アミン」。

9. 主よ、爾を^{たの}恃むに[→]因[→]つて[→]、爾の 憐みを 我等に 垂れ給へ。

10. 主よ、爾は 崇め^{ほめ}讀め^{よみ}らるゝ、爾の 誠^{まこと}めを我に 訓^{おし}へ給^{たま}へ。(3次)

11. 主よ、爾は 世世／ 我等の 避所たり。

12. 我曾て 言へり／、主よ、我を憐み／、
 我が ^{たましい} 霊を ^{いや} 醫し 給へ／、我 罪を 爾に 得たればなり。
13. 主よ、爾に はしつゝ／、爾の旨を行ふを 我に教へ給へ、
14. 爾は我の神／、生命の源は 爾に在ればなり／、
 我等 爾の光に おいて／ 光を觀ん。
15. 憐みを 爾を知る 者に／ 恒に 垂れ給へ。

【聖なる神】

【聖なる神】

聖なる神、 聖なる勇毅 聖なる常生のものよ、

我等を 憐れめよ、 (3回繰り返す)

光栄は 父と子と 聖神に帰す 今も何時も 世世にアミン

聖なる常生のものよ、我等を 憐れめよ、

聖なる神、 聖なる勇毅 聖なる常生のものよ、

我等を 憐れめよ、 「聖なる神…」もう一度繰り返す

(スラブ語)

スヴィヤティイ ボジェ スヴィヤティイ クレプ キー スヴィヤティイ ベス メールトゥヌイ ポ ミ ルイ ナース

続いて

【祭日トロパリ】



【重連祷】

輔祭 神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ。爾に祷る、聆き納れて憐めよ、(詠) 主憐めよ(3次)

輔祭 又我が国の天皇及び国を司る者の為に祷る、

輔祭 又教会を司る我等の主教(某)、及びハリストスに於ける悉くの我等の兄弟の為に祷る、

輔祭 又ハリストスを愛する悉くの皇軍の為に祷る、

輔祭 又恒に記憶せらる福たる此の聖堂の建立者、及び已に寝りし悉くの父祖兄弟、此の處と諸方とに葬られたる正教の者の為に祷る、

輔祭 又神の諸僕此の聖堂の兄弟に、慈憐・生命・平安・壮健・救贖・眷顧・寛宥及び諸罪の赦を賜はんが為に祷る、

輔祭 又此の至尊なる聖堂に物を献り、善業を行ひ、之に勞し、之に歌ひ、及び此に立ちて爾の大にして豊なる憐を仰ぎ望む者の為に祷る、

司祭 (高声) 蓋爾は慈憐にして人を愛する神なり、我等光栄を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世に、 (詠) 「アミン」

【増連祷】

輔祭 我等主の前に吾が朝の祷を増し加へん、 (詠) 主憐めよ

輔祭 神や、爾の恩寵を以て、我等を助け救ひ憐み護れよ、 (詠) 主憐めよ

輔祭 此の日の純全・成聖・平安・無罪ならんことを主に求む、 (詠) 主賜へよ

輔祭 平安の神使正しき教導師、吾が霊体の守護者を賜はんことを主に求む

輔祭 我等の罪と過とを宥め赦さんことを主に求む、

輔祭 我等の霊に善にして益ある事、及び世界に平安を賜はんことを主に求む

輔祭 我等の生命の餘日を平安と痛悔とを以て終らんことを主に求む

輔祭 我等の生命の終が「ハリストティアニン」に適ひ、疾なく、耻なく、平安なること、及びハリストスの畏る可き審判に於て宜しき対をなすを賜はんことを求む

輔祭 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光栄の女宰・生神女・永貞童女まりやと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、
(詠) 主爾に

司祭 (高声) 蓋爾は仁慈と慈憐と仁愛との神なり、我等光栄を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、
(詠) 「アミン」

司祭 衆人に平安、
(詠) 爾の神にも

輔祭 我等の首を主に屈めん、
(詠) 主爾に

司祭 (祝文を黙誦)、聖なる主、高きに居り卑きを臨み、爾が見ざる所なき目にて萬物を鑑る者や、我等心と体との項(くび)を爾の前に屈めて爾に捧る、爾が見えざる手を爾が聖なる住所より伸べて、我等衆人に福を降し給へ、我等に自由或は自由ならずして犯し罪あらば、爾善にして人を愛する神なるに依りて之を赦して、我等に今世来世の諸善を與へ給へ、

(高声) 蓋我が神や、我等を憐みて救ふこと爾に帰す、我等光栄を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、
(詠) 「アミン」

輔祭 睿智
(詠) 福を降せ

司祭 永在の主ハリストス我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に

(詠) 「アミン」 神や、我が国の天皇と、正教会の教と、正教のすべてのハリスティアニン等を永く守り給へ、

司祭 至聖なる生神女や、我等を救ひ給へ、

(詠) ヘルビムより尊くセラフィムに並びなく栄え、貞操をやぶらずして神ことばを産みし実の生神女たる爾を崇め讃む、

司祭 ハリストス神我等の恃や、光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す、

(詠) 光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々に「アミン」、主憐めよ(3次) 福を降せ、

司祭 (發放詞) _____ハリストス我等の眞の神は、其至浄なる母、光栄にして讃美たる聖使徒聖某(本日聖人の名)及び諸聖人の祈祷に因りて我等を憐み救はん、彼は善にして人を愛する主なればなり、

(詠) 「アミン」【萬寿詞】 神よ、我が国の天皇を、及び国を司る者、我等の(府)主教及び悉くの正教のハリスティアニン等を 幾とせにも護り給え。

一時 課一

トロパリ

ハリストス我が神よ、爾の降誕は世界に智慧の光を照せり、此れに由りて星に勤むる者は星に教へられて、爾義の日を拝み、爾上よりの東を覚えり。

コンダク

今童貞女は永在の主を生み、地は載せ難き者に洞を献ず、天の使は牧者と偕に讃め歌ひ、博士は星に従ひて旅す、蓋我等の為に永久の神は嬰兒として生れ給へり。